

平成 29 年度 第 3 回足立区経済活性化会議

会議録要旨

平成 30 年 2 月 7 日（水）
中央館 8 階 特別会議室

(開催概要)

会 議 名	平成 29 年度 第 3 回 足立区経済活性化会議			
開 催 年 月 日	平成 30 年 2 月 7 日 (水)			
開 催 場 所	中央館 8 階 特別会議室			
開 催 時 間	午後 3 時 30 分から午後 5 時まで			
出 欠 状 況	委員現在数 17 名 出席委員数 11 名 欠席委員数 6 名			
出 席 委 員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	福田 友子
	足立 義夫	小沢 頼孝	入江 洋介	鈴木 又右衛門
	小早川 真樹	なかだ えり	本山 功	
事 務 局	<p>(出席職員)</p> <p>大高産業経済部長、島田産業政策課長、倉本就労支援課長、 依田産業振興課長、山崎中小企業支援課長、 日比谷足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 高橋足立区観光交流協会事務局長</p> <p>(事務局)</p> <p>産業経済部産業政策課 経済活性化計画調整担当係 池田、鈴木 株式会社富士通総研 高橋、松田</p>			
会 議 次 第	別紙のとおり			
会議に付した議題	<p>1 経過報告</p> <p>(1) 足立区地域経済活性化基本計画案のパブリックコメント実施結果</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 足立区地域経済活性化基本計画の答申について</p> <p>(2) 足立区経済活性化会議 専門部会の新設及び廃止について</p> <p>3 区長への答申</p> <p>4 検討事項</p> <p>(1) 計画の着実な推進と実効性の確保に向けて</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 平成 29 年度「足立ブランド企業」の認定について</p> <p>(2) 平成 29 年度 あだち産業センター「IT 支援室」協働事業者評価委員会の開催状況について</p>			

(会議録要旨)

島田産業政策課長

みなさま、こんにちは。定刻になりましたので、「平成29年度 第3回足立区経済活性化会議」を開催させていただきます。

本日は、ご多用のところ、ご出席いただき、ありがとうございます。

私は事務局を担当しております産業政策課長の島田でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けております。また、情報公開の関係で、庁舎2階にあります区政情報課におきまして、委員のみなさまの名簿・会議録・会議資料を公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。

また会議録作成のために、本日の会議を録音させていただきます。こちらもご了承ください。

なお、本日は産業経済部の管理職、経済活性化会議事務局職員のほか、産業経済部の係長、コンサル委託事業者（株式会社富士通総研）が同席させていただいております。本日は17名の委員うち、11名が出席されています。規定の委員数に達しておりますので、会議は成立しています。

それでは、中根会長、ご挨拶をお願いします。

中根会長

本日の会議は、今年度第3回ということになり、これまで議論を重ねてきた基本計画の答申に至りました。委員の皆様の協力により、本日を迎えることが出来たと思っています。それでは、本日もよろしくお願い致します。

島田産業政策課長

ありがとうございました。なお、本日は「足立区地域経済活性化基本計画」を区長に答申していただきますが、公務の都合により区長が出席できませんので、副区長の長谷川が代理で受けさせていただきます。ご了承ください。

それでは、本日の配布資料を確認させていただきます。

①次第、②「資料1」委員名簿、③「資料2」席次表、④「資料3」足立区地域経済活性化基本計画案のパブリックコメント実施結果、⑤「資料4」審議事項、⑥「資料5」足立区地域経済活性化基本計画 答申案、⑦「資料6」足立区地域経済活性化基本計画 完成イメージ、⑧「資料7」報告事項、以上です。お手元にそろっていないものがございましたら、お声かけください。事務局からお持ちいたします。

(議事)

中根会長

本日は、「計画案のパブリックコメント実施結果」の説明のあと、2件の「審議事項」があります。その後、この会議において取りまとめた「足立区地域経済活性化基本計画」を区長に答申します。答申の終了後、計画の着実な推進と実効性の確保に向けて、委員の皆様と検討します。そして、最後に事務局から「報告事項」が2件あります。

それでは、「次第」に沿って進めてまいります。次第の1「足立区地域経済活性化基本計画案のパブリックコメント実施結果」について、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料3の「足立区地域経済活性化基本計画案のパブリックコメント実施結果」をご覧ください。

- ・島田産業政策課長よりパブリックコメントの内容に関して、概要説明が行われた。

中根会長

「パブリックコメントの実施結果」について説明がありました。委員の皆様、何か質問等がございますか。ないようでしたら、次に進みたいと思います。

続きまして、審議事項に移ります。まず、「足立区地域経済活性化基本計画の答申について」事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料4の1ページをご覧ください。前回（昨年11月6日開催）の経済活性化会議や庁内の検討委員会でいただいたご意見を踏まえて、「資料5」のとおり足立区地域経済活性化基本計画の答申案を整理しました。

これまで委員の皆様にお示ししていた計画案からの主な変更点を説明させていただきます。

「資料5」の答申案をご用意ください。

3ページをご覧ください。第2章では社会経済環境の変化と区の現況について、「(1)人口の動向」から「(8)観光需要の動向」まで、8つの動きから分析しています。当初、それぞれの動きを1ページで記載していたため、文字が多く、非常に見づらい状況でした。そのため、それぞれの動きについて2ページを使って記載し、グラフも追加しました。5ページから20ページまでを、そのような形で修正しています。

次いで22ページをご覧ください。当初、「柱4」が「訪れたいまちづくり」、「柱6」が「豊かで安全な消費生活の実現」でしたが、ご覧のとおり入れ替えました。入れ替えた理由ですが、6つの柱は21ページの左側にあるとおり、「ひと」「くらし」「まち」の視点から課題を分けて、整理したものです。「ひと」に対応するのが「柱1」「柱2」、「くらし」に対応するのが「柱3」「柱4」、「まち」に対応するのが「柱5」「柱6」がとなっています。修正前は「柱4」と「柱6」が逆だったため、この関係がクロスしてしまい、わかりにくかったため順番を入れ替えました。

25ページをご覧ください。ここも同様の理由で「柱4」と「柱6」を入れ替えています。なお、順番を入れ替えただけで、施策の内容等は変更しておりません。

23、24ページをご覧ください。ここは、「仕事」と「まち」を育てるための区の役割を記載しており、この計画の重要なポイントのひとつです。そのため、事業者や区民、関係機関など様々な方々を「つなぎ」、課題の解決に向けて活動をコーディネートするという「区の役割」をより強調するために、文章とイラストを修正しました。

49ページをご覧ください。「訪れたいまちづくり」ですが、「都市計画マスタープラン」や「エリアデザイン」など、区全体のまちづくりの動き（ハード面の整備、インフラ整備）に合わせて、「まちのにぎわい」づくりに必要な施策（ソフト面の整備）を展開する必要があるということで、事業の方向性に「まちづくりと連動したにぎわいづくり」を追加しました。

最後に「資料編」の追加です。69ページをご覧ください。ここでは、本編に掲載できなかった、アンケート調査などの分析結果を資料として掲載しています。

79 ページをご覧ください。ここでは、足立区を5つの地域に分けて特性や課題を分析し、想定される解決策を記載しています。89 ページは、この計画策定の根拠となる条例を記載しています。93、94 ページに計画策定の経緯と経済活性化会議委員のお名前を掲載しました。

以上が主な変更点です。なお、最終的な完成のイメージは「資料6」のとおりです。

つきましては、このあとの区長への答申に先立ちまして、「計画の答申案」についてご審議いただきたいと思います。なお、基本的にはこの答申案に基づいて答申を行いますが、「わかりづらい専門用語があるので用語解説に追加したほうが良い」ですとか、「この表現がわかりづらいので変えたほうが良い」など、追加・修正が必要な点がありましたらご指摘、ご意見をお願いします。答申を受けて、最終的に計画を決定するタイミングで可能な限り反映させていただきます。

中根会長

会議として答申としての審議をしたいと思います。資料5について、意見があれば伺いたいと思います。表現や言葉等のことにかまいませんので、ご意見をいただけますでしょうか。

小沢委員

これからの話になるかと思いますが、今後、縦割りではない行政として、横の繋がりも考えていただければ良いと思います。

島田産業政策課長

今回の計画策定に関しては、事業を進めるにあたり、庁内に幅広く関わることでもあるため、ダイレクトに担当部署と話をしております。なお実際、部の垣根を超えた内容についても盛り込まれているところはあると考えております。例えば、観光や就労、都市計画等の部分で横での繋がりがあると思われま

鈴木委員

私はハローワークの外郭団体の代表として当会議に参加しておりますが、まず3つめの柱にある雇用については、30年度から具体的に既に動いていただいているとの話しを伺っておりますので、この基本計画と合っていると思います。

なお、個人的に千住に住んでいるということから考えると、人が集まっているということが活性化には最も重要だと思っています。いわゆる街の活性化は中々難しいと思いますが、どれか一つでも事業や施策をしっかりと考えていく事が必要だと思っています。

本山委員

私は足立区で創業しておりますが、創業当時と比較すると区内企業のIT化はだいぶ進んでいると思います。個人的にも、今後協力していきたいと考えております。

なかだ委員

この計画がまとまった際には、冊子はどこで配る予定でしょうか。創業したい人や起業したい人、区内の雇用主や働く人も見る事が出来る状況を作ることが大事だと思いました。

島田産業政策課長

製本が出来た際には、区政情報室や図書館に置くことやHPの活用もする予定です。また、毎年度作成している産業支援ハンドブックでも周知していくことも検討しております。

小早川委員

良くまとまっていると思います。この冊子に関して特に意見はありません。

入江委員

コメントにあったように、良くまとまっていると思いますが、素晴らしいことが載っている反面、実際どれだけ効果が出ているかということに関してわかりやすくなれば、事業を進めるにあたってモチベーションに繋がると思いました。

福田委員

小沢委員から先ほど、行政は縦割りになりがちだというご発言がありましたが、基本構想では協創力という言葉もあり、やはりこれがキーワードになるかと思います。今後、社会の課題も複雑になっていく中で、複数の部署が連携していくような視点が必要だと思っておりますが、この計画にもそうした視点が入っていることは良いことですので、何か一つでも実現していけばよいと思いました。

そのなかで、一点、農地の多面的機能の強化として、福祉との連携とありますが、このフレーズについては、やや唐突感があると思いました。

依田産業振興課長

都市農業基本法というものが制定されましたが、これには都市に農地があるべきだという考え方の前提があります。以前、都市農地は、開発用地だという見方が一般的でしたが、都市農地の多面性についてといったように、考え方に変化が見られます。そういったことも踏まえ、農福連携という言葉にある通り、それぞれの分野が連携することで相乗効果を得るということを意図して記載させていただいております。

福田委員

皆さんに知られているのであれば問題ないと思いますが、イメージがやや沸きにくいかと思われました。

依田産業振興課長

補足させていただくと、昨年、テストケースとして障がい者や子どもがいる一般家庭で農業体験ができるのかどうかといった実験等、色々と連携していくといった体験内容を、行政でも充実させているところです。また併せて30～40歳代の一般の方等に対する食育の促進に向けて、農業と地域の連携が重要だと考えています。

足立委員

農業について話がありましたが、商店においても、新鮮な小松菜や枝豆を商店の店先に置いている方もいます。

岡田副会長

今回、消費者行政に加えて消費者教育という点も記載されており、感激しております。消費者教育については、なかなか進みにくい取り組みだと思えますが、消費者センターの役割は区民がいつでも飛び込んで行くことが出来るようなセンターでありたいと思っております。また、そうしたセンターが足立区にある、ということは一つのウリになると思っております。

島田産業政策課長

今後、高齢者の消費者被害も増えてくる可能性もあるので、地域で見守りを進めていく事や、若者の成人年齢の引き下げの件もありますので、小さいころからある程度の消費者としての自覚を持たせていく事も重要だと思っております。

阿高委員

資料は、全体的に良くまとまっていると思えます。中小企業に関して IoT や AI 等、普及させるということになってはいますが、何を普及させていくかが難しいと思えます。そのためにはまず、中小企業に向けた普及教育が必要ではないかと考えています。区内事業者は、ホームページさえ持っていない方も多くいらっしゃいます。IT は生産性を上げるためだけでなく、販路開拓等においても重要だというかたちで PR していく事が重要だと思えます。

依田産業振興課長

製造業の方を見ると、ホームページやツイッター、Facebook 等を知らない中で商売されている方も多いためと思えます。

山崎中小企業支援課長

平成 30 年度の予算でも、IoT 等の補助金創設も検討中です。具体的にはセミナーや勉強会等も開催予定で、こういった取り組みについても、前向きに進めていきたいと考えています。

中根会長

以前、大手企業に話を聞いていたとき、中国に BPO を委託しているということで、根本的に効率化に関する取り組みが多くなっていましたが、昨今は単に効率化ではなくてソリューションも必要であるという認識が増えており、徐々に経営戦略を実行するために IT を活用すること等が一般的になりつつあります。そう考えると、日本の中小企業はやや遅れているということも考えられます。他にご意見ありますか。

鈴木委員

個人的な意見になりますが、IT 化に向けては、足立区内でフリーWi-Fiを整備することが一番手っ取り早い方法だと思えます。Wi-Fiを整備することにより、ハードウェアは何でも構わないので、高齢者でも誰でも端末を持っていればネットに繋がるといった環境が大事だと思えます。

先ほど、中国の例も挙がりましたが、既に日本の BPO はコスト倒れとなっており、中国では日本が持って行ったシステムを超えるシステムが作られていたりします。こうしたことも結果的に通信インフラが重要であることは変わらず、やはり通信インフラを整備することが重要だと思えますので、足立区が先陣を切ってやることも良いと思えます。

依田産業振興課長

Wi-Fiについては商店街には入れることが出来るかどうか、以前検討をしたことがありますが、ランニングコストがやや高いといった現状です。

本山委員

難しい問題だと思いますが、推進はしたほうが良いと思います。ただし、全域に設置する必要はないと思います。

大高産業経済部長

ITの関連で申し上げますと、日本のキャッシュレスは中国のようなものではなく、nanacoのようなものが中心となっています。そこでWi-Fiに関してもセブンイレブン等を拠点施設として考えることで、少しずつ環境整備をしていく方法もあるかと思えます。

実際、区内の各商店もそうしたキャッシュレス化には対応できていないため、例えばということではありますが、nanacoの利用を商店街で促進する等、リーダーの導入も出来ないかと検討が必要かと考えております。

中根会長

他に意見がなければ、答申案について、異議がないかどうかを確認させていただきます。

【異議なし】

中根会長

それでは副区長もいらっしゃったので、足立区地域経済活性化計画を答申をさせていただきます。

・島田課長による進行のもと、中根会長から長谷川副区長へと答申が行われた。

中根会長

答申書 足立区長 近藤 やよい 様

平成28年10月31日に諮問された「足立区地域経済活性化基本計画」につきましては、5回の経済活性化会議のほか、4つの専門部会を計5回開催し、足立区基本構想や足立区基本計画との整合性を図りつつ、アンケート調査の分析結果等を踏まえて、慎重に審議してまいりました。このたび、別添のとおり取りまとめましたので、答申いたします。

今後とも、区内経済の活性化に向けて「足立区地域経済活性化基本計画」に基づく施策を積極的に推進していただきますようお願いいたします。

平成30年2月7日 足立区経済活性化会議 会長 中根雅夫

長谷川副区長

ただいま、答申をいただきまして、御礼を申し上げます。長きにわたり、計画について審議いただきましてありがとうございました。計画を作ることが目標ではなく、これからこの計画がスタートし、施策を実行していくことが重要であります。基本構想では、30年後を見据え、「協

創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち足立」とうことで目標をたてました。その意味で、この経済活性化基本計画を実現していくことが、足立区が活力にあふれるまちになり続ける、非常に重要な計画であります。来年度から様々な施策を実施していくには、皆様からの様々なご意見を頂戴していくことが必要ですから、引き続きご支援ご協力をよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

・副区長公務のため、退席した。

中根会長

それでは、議事を再開致します。専門部会の新設及び廃止に関してということで事務局より説明をお願い致します。

島田産業政策課長

「資料4」審議事項の3ページをご覧ください。経済活性化会議では、経済活性化会議規則の第6条に基づいて、専門的事項を調査するために、左側の図のとおり14の専門部会を設置しています。2ページをご覧ください。今回、専門部会の新設と廃止を行いたいということで審議をお願いします。

まず、新設についてですが、来年度から、外部の有識者を審査員とした新たな補助金の審査を実施する必要が生じたため、「足立区新製品・新事業開発補助金選考委員会」を新設します。

続いて、廃止です。事業の終了にともない、(1)から(3)を廃止します。また、外部の有識者による審査を終了したことに伴い、(4)と(5)を廃止します。

その結果、3ページのとおり10の専門部会となります。

以上です。

中根会長

ただいまの説明に対して質問はありますか。

(なし)

それでは、事務局から説明があったとおり、部会を新設、廃止することに異議はありませんでしょうか。

(異議なし)

続いて4の検討事項です。「計画の着実な推進と実効性の確保」について事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

ただいま、答申が終わりましたが、計画が完成して終了ではありません。前回の経済活性化会議で鈴木委員から「活性化会議では、専門性を持った方々が委員として選抜されている。皆様の専門性を持った施策に関しては、例えば各委員の方がリーダーになり、計画を1つ実行していくことが重要かと思う」として、「計画を実行する上で、ヒト、カネ、場所、時間などが集まる場を作っていただけないか、そのようにして、実行されることが増えていくと、足立区の魅力も益々増していく」といったご意見をいただきました。

すでに、委員の皆様におかれましては、地域において様々な活動をされ、経営者として経営革新に取り組んでおられるかと思えます。

そこで、計画を着実に推進して実効性のあるものとするために、委員の皆様がそれぞれのお立場で、「こんな活動ができるかもしれない」ですとか「区に対してこんな役割を担って欲しい」など、今後に向けてご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

中根会長

事務局の説明がありました通り計画を着実に実行していくため、委員の皆様のそれぞれのお立場から今後の施策について「こういった点で関わられる」ですとか、区への要望などについてフリートークの形で意見交換したいと思います。

足立委員

区内の商店街では、1,600店の事業者がおります。結局、高齢化と後継者が大きな課題となっています。大型店の出店もあり、大きな事業者が来ることで、地域の商店が厳しい状況となっています。こうした零細商店が何とか状況を克服していくことが悩みの種となっています。

依田産業振興課長

商店街の方と話をすると、商店街や商連に加盟するメリットが問われていると思います。足立区全域の商店街間で助け合うような取り組みも昨年から進めており、新たなイベントの話もあります。例えば、別の地域の商店と連携して、助け合うような取り組みを今年度も全域に広げていくこととなっています。こうした取り組みを進めていくことで、少しでも活性化していくことが出来れば良いと考えております。

小沢委員

計画書の6番目の柱に、訪れたいくなるまちづくりとありますが、これが一番基本になってくると思います。人と人が繋がることが重要だと思えますし、工場や商店、街、住民などの人が繋がれば、例えば商店街に町工場で働く人たちが見学に行く等の連携を促進するイベントをすることができて楽しいと思います。

依田産業振興課長

一部の商店街の方は、区内の農家から農産物を買って、区民に売るといった関わりや連携も始めているところです。一例ですが、色々なところで、足立区のいい製品を発表できることが出来れば良いと思っています。展示等についても工夫をしているところですが、今後もそうした機会を増やしていきたいと思っています。

鈴木委員

私も人の賑わいが、街の活性化ということのメルクマールになると思いますし、人がどの程度集まったかということが結局大事だと思っています。例えば、GDPについては区単位で計測しにくいというところもあろうかと思えますので、来街者や集客数を基準に考えることが妥当なのかとも思いました。

また、あえて申し上げますが、千住エリアだけでもどうにかならないかとも思います。中洲でコンパクトシティとしての特徴もあり、都市機能が集中していることに加え、北千住という中核的なエリアもあるため分かりやすいと思います。

なお、潤徳学園の応募者も去年より25%増となっており、北千住のイメージアップもあったか

と思っています。

島田産業政策課長

ご発言のあった通り、千住は交通の要としても、中心となっていると思います。今、千住が注目されていることを、さらに活性化していくことに期待しています。そして、他のエリアにも横展開出来れば良いと思っています。

本山委員

先ほど申し上げた通り、ITで中小企業支援課とも連携をしていければと考えております。

大高産業経済部長

区内企業に必要なソリューションは、まちまちだと思っています。区が行ってきたカリキュラムや講座等は、予め内容が決まっていることが多かったと思います。これからはそうではなく、それぞれの企業に訪問しつつ、どういうソリューションが必要かどうか等、オーダーメイドの支援も必要だと思っています。マスに対する講座も必要かと思いますが、ベクトルを変えていきたいと考えています。そうした体制を作っていかなければならないと考えています。

本山委員

お話を聞いていて、ITに特化したマッチングクリエイターのような制度かとも思いました。

なかだ委員

古い一軒家を活用してリノベーションしていますが、個人イラストレーターなので、大したスペースを使っていません。そこで空いているスペースを活用したいと考え、地域交流の場に使ってもらいたい等と考えたりしますが、その反面、一人でそこまで交渉して出来ていない状況です。やはり、マッチングがあれば良いと思いますし、そういったことが相談できる場所があっても良いと思います。

また、伝統工芸という観点からは、例えば千住に住んでいる手書きの絵馬屋さんである吉田絵馬屋があります。後継者問題は存じ上げませんが、居ないのであれば、色々な図柄の伝承は難しいとしても、代表的な絵柄を3つ程度、伝承できれば良いのではないかと思います。全てを伝承することは難しいと思いますが、このように部分的な事業継承も必要ではないかと思います。

島田産業政策課長

スペースの活用に関しては、千住でも空き家イベントも開催されている等の動きが出てきています。自由に動ける調整役やグループとして、足立区協創プラットフォームとして期待しているところです。区の役割としては、場づくりをしていければと思っています。

依田産業振興課長

伝統工芸については、日本伝統工芸士会の方も二十数名いらっしゃる状況です。彫金や銀器、木彫といった方々と話をさせていただくと、後継者問題で困っていると相談されています。そこでネックとなっていることは、新しい方は来るということですが、なかなか職人として一人前になるためのハードルが高く、売物を作れるようになるまで十数年かかるということです。

そこで、木彫なら木彫というかたちで、分野別に特化した仲間でネットワーク化して繋がって

いければ、後継者問題にも寄与していくことになろうかと思えます。

なかだ委員

この計画を読んで相談したいと考えたとき、どの窓口に行けばいいかお伺いしたいです。

島田産業政策課長

まずは産業経済部に来ていただければ、もちろんそこから他部署に繋げることは考えております。

小早川委員

当社はもうすぐ創業 50 年となります。7 年前、私が代表となり、足立区のビジネスチャレンジ企画に応募したのがきっかけで、そこから登記を変え、足立区に移転してきた経緯があります。以前の所在である北区の産業支援と比較すると、足立区の方が優れていると考えています。各区の産業支援を見ていましたが、そういった中では中小企業に対する支援が特に優れていると思っています。昨今は、他区も追いつけ追い越せといった雰囲気がありますので、今後も支援を継続してお願いしたいと思えます。

そこでまず、IT について申し上げますと、足立区の事業者の IT スキルは高くないと思っています。中小モノづくり企業では、IoT に関しては認知すらされていない部分があります。足立区での有名事例では、今野製作所もあるかと思えますが、社長のお話ではまだまだ取り組みが足りないということでした。とはいえ、IT に力を入れている事業者も一部いると思えますので、全体の事業者の底上げに加えて、今野製作所のようなリーディングカンパニーを育成・PR し、集中的に力を入れていくことも大事になってくることかと思えます。

就労支援では、若者サポートステーションより連絡をいただき、引きこもりやニートについて、就労支援サポートということで昨年来 5~6 人程度、弊社でも受入れをしています。今も体験パートタイマーとして働いていますが、やはり受入れ先企業選定に加え、経営者の理解度が低く、現場は苦勞していると思えます。そしてちょっとしたミスがあると、サポートステーションの担当の方に謝られることがあり、他の受入れ企業でも厳しい現状があるものと推察しています。そこで、提案ではありますが、例えば足立ブランド認定は 50 社を超えてきているため、認定するにあたり就労支援のバックアップも認定条件として加えていくことも重要かと思えました。

最後に、以前も申し上げましたが、弊社では足立工場男子という本を出版しました。大田区等の事例を参考に、シンボリックなものを作りたいという話がありましたが、ものづくりの連携がしにくいという特徴が足立区にはあると考えています。そこで、人にスポットを当てたという経緯もあります。結果的には、中小零細の社長が労働者を雇いやすくなった、モチベーションが上がった等の意見をいただいています。そこで、現場職人の連携によって、自社業務だけでなく、20 代の若手のモチベーションを高め、辞めない体質を作っていくことが重要だと思えました。

島田産業政策課長

まず IT に関しては、先ほどありました通り、計画内にイノベーションの促進も記載をしております。先端技術へのチャレンジも予算に組み込んでおります。

倉本就労支援課長

次いで、就労に関して申し上げますと、国の事業メニューに新たに職場体験が入ることになり

ました。意図としては、人手不足の産業に若者を誘導し、職場体験をさせることで、継続的に雇用に結び付けられればといったことだと思われます。

足立区では、4月から若者サポートステーションについて、体験先企業を開拓しているところですが、現在30社程度見つかっており、足立区外の企業からも声かけがあるといった状況です。継続してアルバイト等を通じ、働いている人も何人か出てきており、軌道に乗りつつあります。

依田産業振興課長

ブランド企業の就労者受入については、企業ごとに違いがあるため、受入れノルマは難しいと思います。ノルマとせず、受入れしている企業が盛り上がっているということで、協力いただいていると思っています。

中根会長

中高年の就労体験に関するニーズも高いという話もあります。

依田産業振興課長

40歳代前後が狭間になっていると思いますが、機会に応じて就労体験をしていただき、関係団体と連携していきたいと思っています。

小早川委員

認定されている企業にお願いすることで、受け入れ先となるのではないかとこのように思います。ブランド企業間でも知らない企業も多くありますので、認知度に関しても問題があると思います。

大高産業経済部長

就労支援と言うことですが、子供達のインターンシップ等も年々受け入れ先が厳しくなっていると思います。インターンシップについては、教育委員会からお願いする等となりますが、ネットワークを使って商工会議所などともう少し柔軟に協力していくことも重要だと思っています。

ITについては、底上げに加えて、リーディングカンパニーをさらに強化していくことも必要だと考えています。

依田産業振興課長

若者労働者のネットワークについては、工業会連合会も参加団体が減っている中、交流の機会や、勉強の機会を作っていくべきではないかという話もあります。今後は、職人やスタッフが参加できる機会を作っていければと思っています。

ただ直接区役所が介入することではないと考えていますので、調整をしたうえで進めていければと思っています。

入江委員

私は観光業で、ホテルやまちカフェ等の運営を行っており、外国人が4,000人/月程度でいらっしやいますが、結果的に旅行の思い出というのは、人との繋がりの部分であることが分かります。また、観光ガイドに載っていない、マニアックな観光スポットが区内には多くあると思っています。そこで、色々なマップや施設案内等の英語化をお願いしたいと思っています。

さらに、いろいろな宴会やイベントに際して、面白い方が集まる機会が多くあると思います。ただし一過性のイベントではなく、繋がりが継続しうる場を創っていくことが必要だと思っています。緩い繋がりでも良いので、そうした人たちの繋げていく役割を区が担っていただけると助かります。

高橋事務局長

施設の英語化については、千住に観光案内所として街の駅という施設を開けております。民間事業者に委託しているところですが、外国人に対応できるようにしていければと思っています。

繋がる場としては、生涯学習振興公社が昨年夏にエンブレムホテルさんを会場にお借りして開催したアートルックカフェが、地域で活躍する人達を集めて、マッチングを促す場になっていました。今後は、イベントを開催して集客を図ることだけに注力するのではなく、個々の皆さんをコーディネートしていくことが重要だと思っています。

福田委員

事業者の経営力強化の項目に事業承継等を筆頭に、公社の名前を多数入れていただいています。公社の支援メニューを活用いただく等、今後連携する可能性は大いにあると思っています。

また、伝統工芸の人材育成が難しいといった話もありましたが、城東支社でも地場産業として、城東エリアの伝統工芸をいかに活性化していくかということを考えながら、商品開発を軸にして職人とデザイナーをまとめ上げて商品化を進めていくことや、国内外に発信していくこと等にも取り組んでいるところです。伝統工芸はニッチなものというイメージもありますが、マーケット、知財、販売促進、輸出促進といった要素も含まれていますので、伝統工芸の職人の連携も今後さらにやっていけると思います。

岡田副会長

今回の計画の消費者教育の柱には、市民社会の実現という記載があります。そして、消費者個人の行動が経済に影響を与えるかという点が、産業にとっても、最も重要であると思っています。今回、経済活性化会議に参加させていただいていますが、消費者センターの相談員が会議に参加しているという例は、23区内でも少ないと思います。元々、産業と消費のテーマは距離が遠いということも大きいと思っています。今後は、産業と消費がより身近な立場で何らかの取り組みを進めていくことが重要で、例えば消費者センターを各産業にPRしていくことも重要だと思います。そうすると、もっと消費者が、足立区の産業に興味を持ってくれることにもなると思います。

阿高副会長

活性化の一つにイノベーションとありますが、中小企業のニーズを聞き出すことが最も大事かと思っています。実際、企業のニーズを聞いて教員とマッチングさせたりするケースもあり、こういった取り組みも必要になってくると思います。イノベーションについても、出来る範囲で進めていくことが重要だと思っています。

最近、学生と話をする、学生自身は社会との繋がりを求めていることが多く、ボランティアをやりたいという気持ちがあると思います。そうしたボランティア活動を上手く活用し、教育の一環としてやっていくことも大事ではないかと思いました。

足立区はまた下町の雰囲気もあり、人との繋がりは作りやすい環境にあると思います。先日、ある介護センターでは、痴呆症の人を店員にするという事例もあり、看板に店員の間違いは承認

してくれということでやっているようでした。認知症の方も社会の役に立っているという意識のもと、病気の進行が遅くなるといった事例もありました。

中根会長

今後、計画を製本し、委員の意見を踏まえたかたちで事業を進めていければと思います。

続いて、報告事項が2点あります。

- ・ 依田産業振興課長から、平成 29 年度「足立ブランド企業」の認定について、山崎中小企業支援課長から、あだち産業センター「IT 支援室」協働事業者評価委員会の開催状況について報告が行われた。

島田産業政策課長

本日をもって、計画に関する審議は終了ですが、皆様の任期は今年の 10 月 30 日までとなっております。来年度 4 月以降に計画の進捗状況等に関してのご報告等のために、1 回、ないし 2 回、会議を開催させていただく予定ですので、よろしく申し上げます。

以上